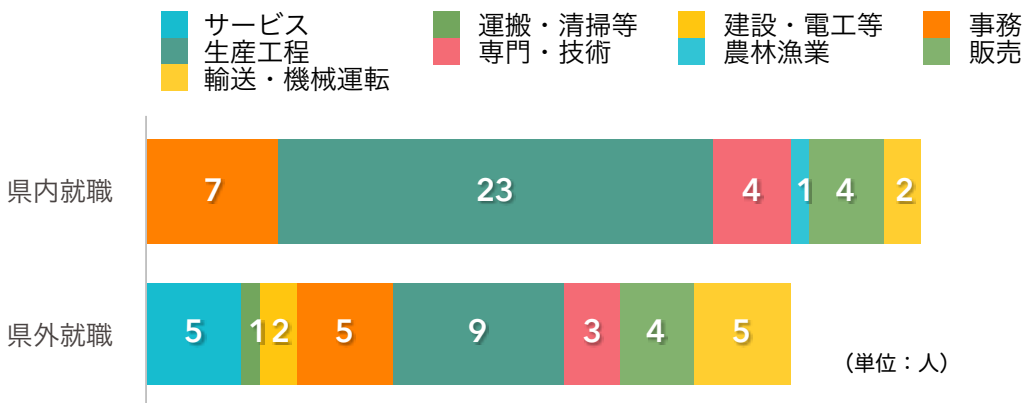


歩 -AYUMI-

一歩一歩進む 少しずつ目標に近づく

3年生の就職応募状況は…

県内就職が多くなる見込み

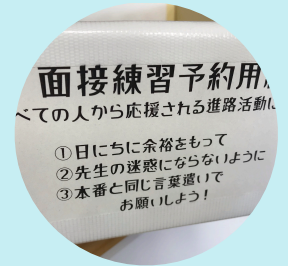


	サービス	運搬・清掃等	建設・電工等	事務	生産工程	専門・技術	農林漁業	販売	運輸・機械運転	総計
県内				7	23	4	1	4	2	41
県外	5	1	2	5	9	3		4	5	34
総計	5	1	2	12	32	7	1	8	7	75

9月5日(木)から就職応募書類の受付が始まり、9月9日(月)現在で本校の応募状況をまとめました。今年度の3年生は県内就職希望が41人、県外就職希望が34人となり、県内就職への応募が多くなりました。県でも県内就職を増やして地元定着が進むように努力しておりますが、本校もその流れに沿った形になってきたように思われます。職種別では生産工程や販売、事務の仕事が多くなっており、これは例年の傾向と同じになっています。

企業の選考は16日(月)から始まり、早ければその週にも内定通知が届く見込みです。企業によっては1回目の選考では求人数に満たないところもあり、残念ながら内定をいただけなかった場合は、そのような企業の選考に向けて準備を再開することになります。

就職試験もうすぐ開始



左記のように9月16日(月)から企業による新規高等学校卒業生の選考及び内定が開始されます。3年生の就職志望者はこの日に備えて筆記試験や面接の対策に取り組んできています。本校では毎年なるべく多くの教員と模擬面接をするようにしており、今年度も模擬面接を行う部屋の使用計画表はぎっしりと予定が埋められています。

面接対策には過去の受験報告書を見て想定される質問への答えをまとめ、しっかりと話す練習をし、模擬面接をお願いしてなどと、就職希望者は忙しい毎日です。

今年度も本校は内定率100%を目指します。

1年生へ

進路目標を定めよう

2学期には来年度のコース選択を行います。そのためにも自分卒業後に何を目標とするのかを決めましょう。早めに決めると目標実現の可能性も高くなります。

2年生へ

行事に振り回されずに

修学旅行も近づき気持ちもそちらに向いていると思われそうですが、3年生の0学期まで約4ヶ月です。本格的な進路対策に備え、やるべきことは日々継続しましょう。

3年生へ

周囲に配慮した行動を

周囲には就職する人、AO・推薦入試を受ける人、一般入試に備える人など様々な人がいます。周りの人の気持ちや自分の行動に配慮して、互いに支え合しましょう。



大学入試における英語外部検定試験とは？

大学入試英語成績提供システムの概要

令和3年度大学入学者（現在の高校2年生）は現在のセンター試験に代わって「大学入学共通テスト」を受けることとなりますが、それに加えて多くの大学では英語の外部検定試験の成績を選抜に用いるとしています。英語の外部検定試験とは英語の4技能（話す・聞く・読む・書く）を測る試験のことで、入試での利用を認定されている試験は7つあります。多くの受験生は「実用英語技能検定」（いわゆる英検）やベネッセコーポレーションが実施する「GTEC」を受検するものと思われます。本校では2年生に対して、検定試験実施に関する情報提供が早く、日程や受検地、実施方法などを明確に発表していたことから、来年の6月14日(日)に横手市で実施される見込みである「GTEC」の受検を指導していく予定です。

これらの外部検定試験の成績は大学入試英語成績提供システムで一元管理されます。入試の受験生が大学に対して個人的に提示するのではなく、大学が大学入試英語成績提供システムから各受験生の成績をもらう形になるということです。そのため受験生は一人一人個人番号（共通ID）を取得して、外部検定試験を申し込む際に共通IDを提示して受検することになります。2年生の共通ID取得の手続きは学校で一括で行いますので、進学をする可能性のある生徒は学校の指示に従って確実に取得しておいてください。取得のための費用はかかりません。

外部検定試験はいわゆる検定試験ですので、費用や日程の調整がつけばどの試験を何度受けてもかまいません。しかし、大学入試英語成績提供システムに登録できる成績は令和2年4月から12月までの期間に受けたものが2つまで登録されます。3つ以上受検した場合は、古いものの2つの成績が登録されることになっております。

各大学がこの大学入試英語成績提供システムから提供される成績をどのように利用するかは各大学に任せられており、一般的には一定以上の成績を出願の条件とする場合と、成績を大学独自の配点で点数化して利用する場合があります。（外部検定試験の成績を利用しないとしている大学もあります。）受験生は受検する可能性のある大学がどのように外部検定試験の成績を利用するのかをしっかりと調べておくことが重要です。

この新しい制度はやや複雑なものとなっており、いろいろと疑問なことがあると思います。疑問点を思いついた時は調べてみたり学校に質問したりして、早めに解決しておいてください。昔から受験は情報戦であると言われてきました。情報を制するものが受験を制します。



卒業生の活躍

教員をしていて感じる喜びの一つは卒業生の活躍を知ることですが、最近また一つ卒業生の活躍を知る機会がありました。秋田県立大学では「学生自主研究」が行われており、新入生と2年生が自分でテーマを設定してグループ研究を行うことができます。その平成30年研究レポート冊子が学校に送られてきました。生物資源科学部では全部で36件の研究が実施されその内4つの研究が大きく取り上げられていますが、その中の一つが湯沢翔北高校卒業生が入っているグループものでした。研究テーマは粉チョークと炭で水質浄化剤を作るというもので、彼女は高校時代から八郎湖のアオコの問題や水質浄化に関心があり、すでにその時から個人的に秋田県立大学の先生とこの問題について話をしていました。自分の関心のあることをさらに深く研究している様子がわかり、彼女にとっては大学進学が卒業後の活躍にしっかりとつながっていると感じられます。在校生の皆さんも卒業後には自分の能力を発揮して様々な分野で広く活躍し、数年後、私たちにたくさん喜びを与えてほしいと願っています。

